

[成果情報名] 最上川における上流域の産卵親魚の移動

[要 約] 最上川の上流域においてアユ親魚の標識放流を行ったところ、約 15 km 下流の地点において放流日から 8～12 日後に投網により 11 尾再捕獲された。

[部 署] 山形県内水面水産試験場 資源調査部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 研

[キーワード] アユ、産卵降下、標識放流

[背景・ねらい]

最上川におけるアユ禁漁措置内容の検討にあたっては、親魚の産卵降下に関する知見は重要な基礎資料となる。アユ親魚の産卵降下は、9～10 月に顕著に観察され、この時期のヤナやその他の漁で利用されるなど、一般的に知られた習性であるが、その移動速度や到達する産卵場などは必ずしも明らかでない。このため、産卵期に標識放流を行い、これらの把握を試みた。

[成果の内容・特徴]

1. 大江町藤田地内の最上川の築場にて平成 19 年 10 月 8 日から 10 日までの 3 日間、アユ親魚の採捕を行い、430 尾に脂鱭切除による標識を施して再放流した(図 1, 2)。
2. 標識魚は、下流の寒河江市島地内の長崎大橋周辺にて投網により 10 月 16 日に 120 尾中 1 尾、17 日に 100 尾中 2 尾、18～20 日に 400 尾中 8 尾が確認された(図 2)。それより下流の調査地点での標識魚の採捕はなかった。なお、放流地点から長崎大橋までの距離は 15 km であったことから、移動速度は平均 1.3～1.8 km/日と計算された。

[成果の活用面・留意点]

1. 本調査は、アユ禁漁期間中にヤナ場関係者の協力を得て実施した。
2. 今年の結果は、調査期間中、大規模な産卵降下の刺激となる増水(図 3)や急激な水温低下がみられない特異な年であったため、例年とは異なっている可能性がある。
3. 精度を上げるため標識放流数を増やし再調査する必要がある。

[具体的なデータ]

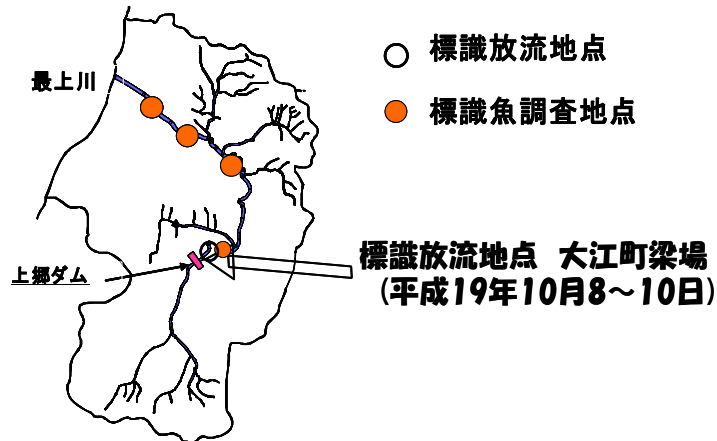
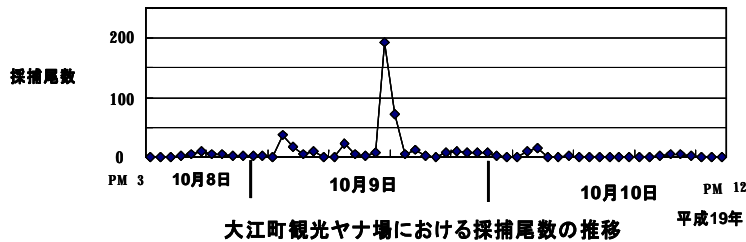


図1 アユ親魚の標識放流追跡調査における調査地点の位置

実施期間：10月8日午後3時～10月10日午後12時(禁漁期間中)

結果： 総採捕尾数 : 522尾
うち標識放流尾数: 430尾



標識魚の再捕獲状況

10月16日～20日 下流15kmの寒河江市島長崎大橋付近で11尾

図2 大江町ヤナからの標識放流結果 平成19年

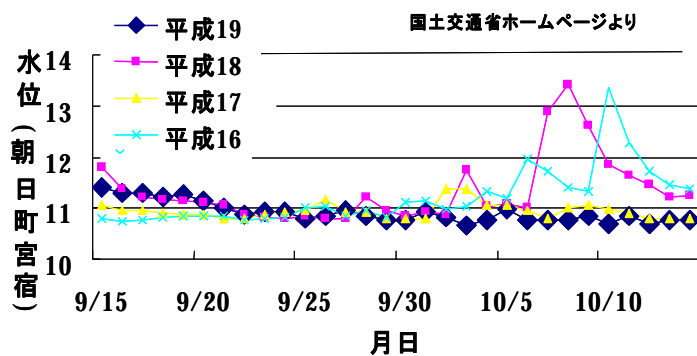


図3 最上川における河川水位の推移

[その他]

研究課題名：最上川における効果的なアユ禁漁措置に向けた調査

予算区分：県単

研究期間：平成19年度(平成18～20年度)

研究担当者：高澤俊秀

発表論文等：